

【令和3年度 静岡県の職業能力開発に係る調査結果（概要版）】

【調査結果のポイント】

◎アンケート調査結果

〔人材の育成・能力開発〕

- 人材の育成・能力開発の課題として、「指導する人材が不足している」（60.9%）と「人材育成を行う時間がない」（46.3%）を挙げる事業所が多い。

〔デジタル人材の確保・育成〕

- デジタル技術を活用している工程・活動は、「受・発注管理、在庫管理」（43.3%）、「営業支援（見積作成、需要予測等）」（34.1%）、「取引先とのネットワーク化」（32.6%）が多く、社外とのネットワーク形成や受発注分野での活用が進んでいる。
- デジタル人材の充足状況では、「デジタル化を主導するリーダー人材（マネージャー）」「デジタル化の企画・立案・推進を担う人材」「社内インフラ（ネットワーク等）の構築、保守・管理ができる人材」など、いずれのタイプの人材も「不足」が「充足」を大きく上回っており、広範にわたってデジタル人材が不足している。
- デジタル技術に関連した研修・教育訓練の実施方法として関心があるのは、「外部の研修・講習会への参加」が6割を超え、従業員に学ばせたいデジタル技術では、「一般的なデジタル技術に関する知識・技術の習得」（73.4%）、「デジタル技術の自社への導入・活用・応用」（63.2%）が多い。

〔デジタル技術の進展に対応したものづくり人材の育成〕

- 製造業者が、民間や公的な教育訓練機関に要望するO F F - J Tの内容は、「5 Sなど、基本的な心構えを身につけさせるもの」「機械の保全に関する専門的知識・技能を習得させるもの」「O J Tでは習得が難しい体系的な知識・技能を習得させるもの」など、ものづくり関連の幅広い項目が並ぶ。
- ものづくり人材にとって鍵となる技術・技能として、現在では、「生産工程を改善する知識・技能」「設備の保全や改善の知識・技能」「多工程を処理する技能」を、5年後では、「生産工程を改善する知識・技能」「多工程を処理する技能」「品質管理や検査・試験の知識・技能」を挙げる事業所が多い。「I C Tなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識」は、現在は11.2%と低いですが、5年後は39.2%まで増加しており、今後、重要となる技術・技能の一つとして見ている。

〔県立工科短期大学校・浜松技術専門校が実施する在職者訓練〕

- 在職者訓練として開講を要望するコース分野としては、「機械」「管理」「情報」が30%前後で並ぶ。個別のコースとしては、「コスト改善・低減」「ネットワーク構築」「品質管理」が上位となっている。

1 アンケート調査

(1) アンケート調査方法の概要

ア 調査方法

「静岡県会社要覧 2021」（一般財団法人静岡経済研究所発行）等から製造業・建設業を中心に抽出した 3,075 事業所に対し、調査票郵送によるアンケート方式で実施。回答は、調査票もしくはWEB。

イ 調査時期

令和3年8月

ウ 回答数

1,000 事業所（回答率 32.5%）

(7) 事業分類別（業種別）

業種	回答数	構成比 (%)
製造業	464	46.4
建設業	238	23.8
その他*	298	29.8
全体	1,000	100.0

※「その他」は、電気・ガス業、情報通信業、運輸業、卸売・小売業、医療、福祉・介護、その他の合計

(4) 従業員規模別

従業員数	回答数	構成比 (%)
1人～10人	121	12.1
11人～30人	343	34.3
31人～50人	162	16.2
51人～100人	169	16.9
101人～300人	132	13.2
301人以上	56	5.6
不明	17	1.7
全体	1,000	100.0

(ウ) 事業所所在地の地域別

地域	回答数	構成比 (%)
東部	257	25.7
中部	377	37.7
西部	359	35.9
不明	7	0.7
全体	1,000	100.0

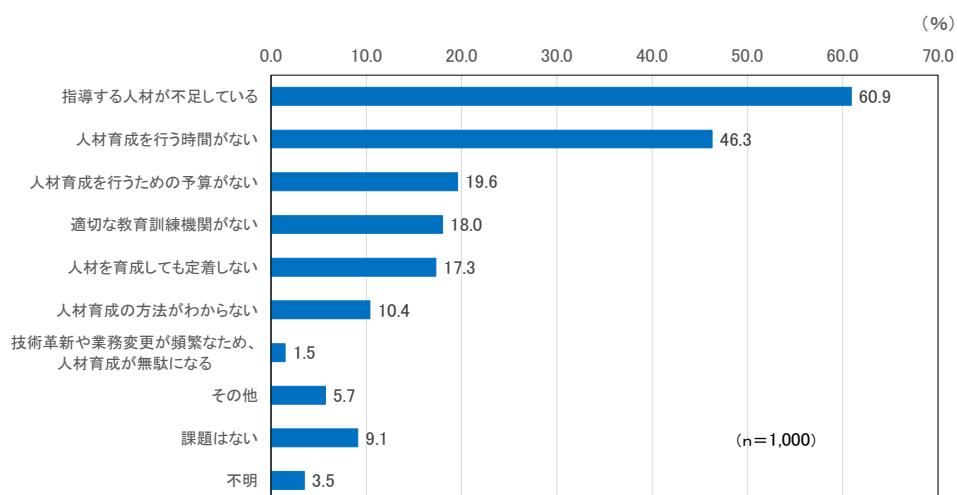
(2) アンケート調査の結果

ア 人材の育成・能力開発について

(ア) 人材の育成・能力開発に関する課題

- ・「指導する人材が不足している」(60.9%)と「人材育成を行う時間がない」(46.3%)が高くなっている。「人材育成を行うための予算がない」「適切な教育訓練機関がない」が2割弱で続く一方、「人材を育成しても定着しない」とそもそも人材の定着を課題に挙げる回答も17.3%を占める。
- ・業種別にみると、業種により大きな差はみられないものの、「指導する人材が不足している」で、「製造業」と「その他」が6割を超え、「建設業」と比較して高くなっている。
- ・また、「適切な教育訓練機関がない」では、「製造業」「その他」が1割台にとどまる中、「建設業」が2割を超えている。

図表 人材の育成・能力開発に関する課題（複数回答）



図表 業種別にみた人材の育成・能力開発に関する課題（複数回答）

(上段:実数、下段:%)

	合計	指導する人材が不足している	人材育成を行う時間がない	人材育成を行うための予算がない	適切な教育訓練機関がない	人材を育成しても定着しない	人材育成の方法がわからない	技術革新や業務変更が頻繁なため、人材育成が無駄になる
全体	1,000	609	463	196	180	173	104	15
	100.0	60.9	46.3	19.6	18.0	17.3	10.4	1.5
製造業	464	289	230	102	71	81	48	4
	100.0	62.3	49.6	22.0	15.3	17.5	10.3	0.9
建設業	238	134	104	42	54	41	21	6
	100.0	56.3	43.7	17.6	22.7	17.2	8.8	2.5
その他	298	186	129	52	55	51	35	5
	100.0	62.4	43.3	17.4	18.5	17.1	11.7	1.7
	合計	その他	課題はない	不明				
全体	1,000	57	91	35				
	100.0	5.7	9.1	3.5				
製造業	464	23	39	18				
	100.0	5.0	8.4	3.9				
建設業	238	15	22	7				
	100.0	6.3	9.2	2.9				
その他	298	19	30	10				
	100.0	6.4	10.1	3.4				

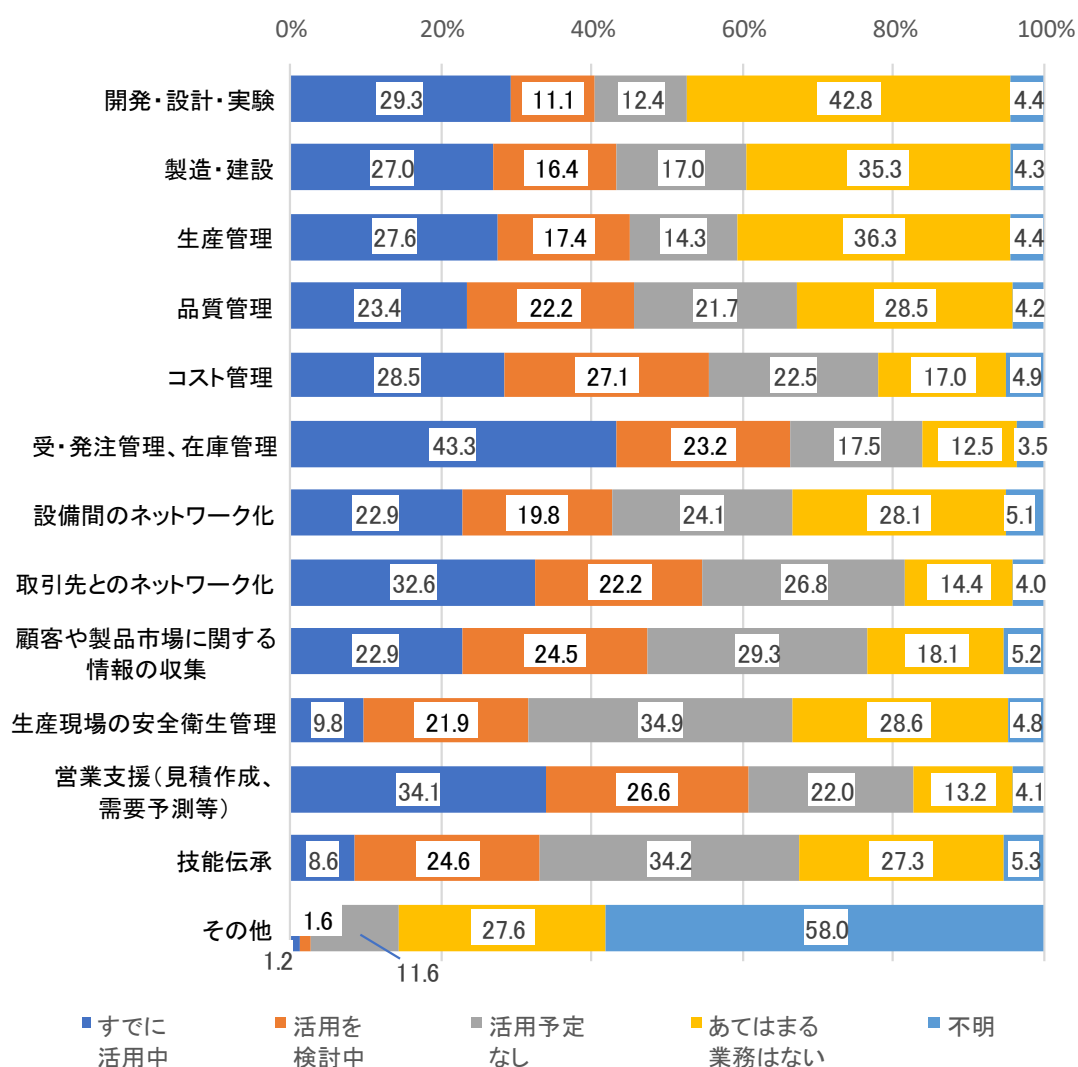
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。以下同じ。

イ デジタル人材（デジタル技術を事業に活用できる人材）の確保・育成について

(ア) デジタル技術を活用している工程・活動

- ・「すでに活用中」では、「受・発注管理、在庫管理」が43.3%で最も多く、「営業支援（見積作成、需要予測等）」が34.1%、「取引先とのネットワーク化」が32.6%で続いており、社外とのネットワーク形成や受発注分野での活用が進んでいることがうかがえる。
- ・「活用を検討中」では、「コスト管理」が27.1%で最も多いものの、「営業支援（見積作成、需要予測等）」「技能伝承」「顧客や製品市場に関する情報の収集」「受・発注管理、在庫管理」「品質管理」「取引先とのネットワーク化」「生産現場の安全衛生管理」も2割台となっており、様々な分野での活用を検討していることがうかがえる。

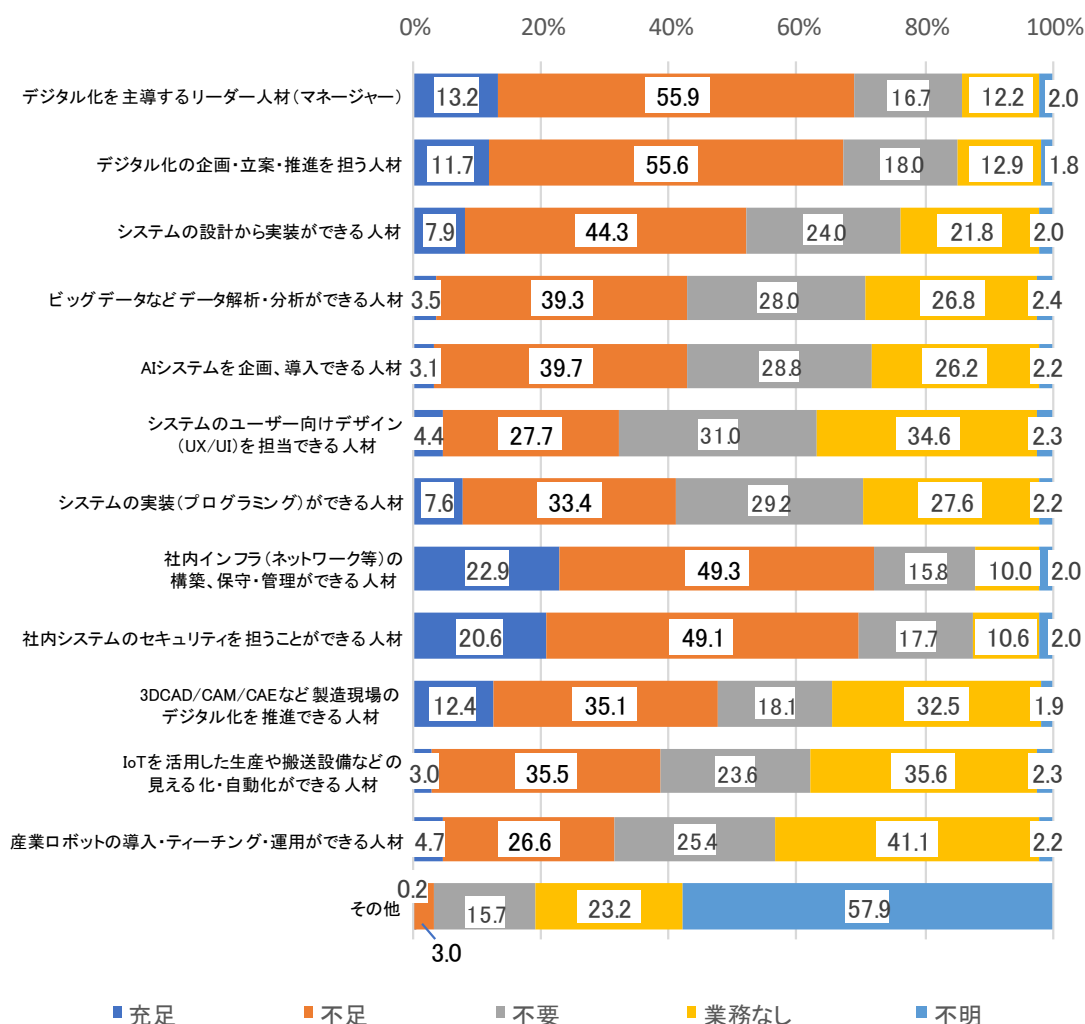
図表 デジタル技術を活用している工程・活動



(イ) デジタル人材の充足状況

- いずれのタイプの人材も「不足」が「充足」を大きく上回っており、広範にわたってデジタル人材が不足していることがうかがえる。
- その中でも「充足」割合が高いタイプをみると、「社内インフラ（ネットワーク等）の構築、保守・管理ができる人材」「社内システムのセキュリティを担うことができる人材」が2割を超えている。
- 「不足」割合が高いタイプでは、「デジタル化を主導するリーダー人材（マネージャー）」「デジタル化の企画・立案・推進を担う人材」がそれぞれ5割を超える。
- 「充足」の割合が比較的高かった「社内インフラ（ネットワーク等）の構築、保守・管理ができる人材」「社内システムのセキュリティを担うことができる人材」も「不足」が5割近くに上っている。

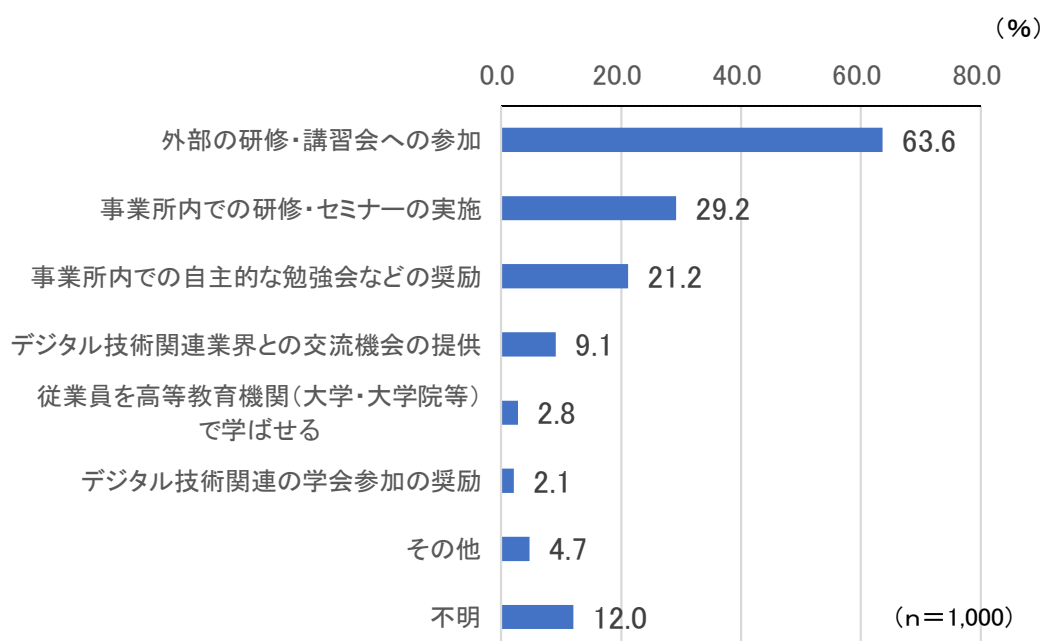
図表 デジタル人材の充足状況



(ウ) デジタル技術に関連した研修・教育訓練の実施方法

- ・「外部の研修・講習会へ参加」が63.6%で抜きんで多い。一方、「事業所内での研修・セミナーの実施」(29.2%)、「事業所内での自主的な勉強会などの奨励」(21.2%)など、事業所内でのデジタル技術に関連した研修・訓練に関心のある事業所もみられる。
- ・業種別にみると、業種により大きな差はみられないものの、「外部の研修・講習会へ参加」で、「製造業」と「建設業」が6割を超え、「その他」と比較して高くなっている。

図表 デジタル技術に関連した研修・教育訓練の実施方法（複数回答）



図表 業種別にみたデジタル技術に関連した研修・教育訓練の実施方法（複数回答）

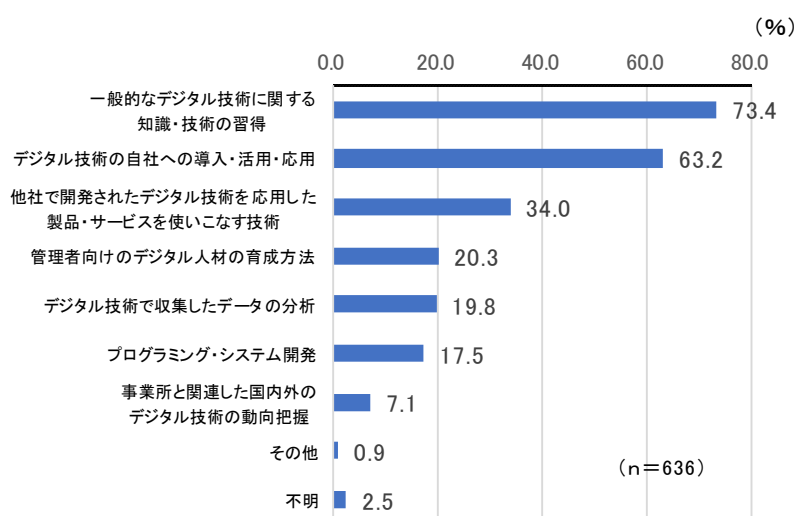
(上段:実数、下段:%)

	合計	外部の研修・講習会への参加	事業所内での研修・セミナーの実施	事業所内での自主的な勉強会などの奨励	デジタル技術関連業界との交流機会の提供	従業員を高等教育機関(大学・大学院等)で学ばせる	デジタル技術関連の学会参加の奨励	その他	不明
全体	1,000 100.0	636 63.6	292 29.2	212 21.2	91 9.1	28 2.8	21 2.1	47 4.7	120 12.0
製造業	464 100.0	311 67.0	136 29.3	97 20.9	52 11.2	16 3.4	12 2.6	20 4.3	46 9.9
建設業	238 100.0	155 65.1	61 25.6	45 18.9	18 7.6	6 2.5	4 1.7	11 4.6	23 9.7
その他	298 100.0	170 57.0	95 31.9	70 23.5	21 7.0	6 2.0	5 1.7	16 5.4	51 17.1

(I) 従業員に学ばせたいデジタル技術

- 前問で「外部の研修・講習会への参加」に関心があると回答した 636 事業所に対して、どのようなデジタル技術を従業員に学ばせたいか尋ねたところ、「一般的なデジタル技術に関する知識・技術の習得」(73.4%) 「デジタル技術の自社への導入・活用・応用」(63.2%) とする回答が多かった。次に、「他社で開発されたデジタル技術を応用した製品・サービスを使いこなす技術」が 34.0% で続く。総じてデジタル技術の取り込みに着手したばかりの事業所が多いように見受けられる。
- 業種別にみると、「一般的なデジタル技術に関する知識・技術の習得」では、いずれの業種も 7 割を超え、「デジタル技術の自社への導入・活用・応用」については、「製造業」が 7 割台、「建設業」が 6 割台、「その他」が 5 割台となっている。

図表 従業員に学ばせたいデジタル技術（複数回答）



図表 業種別にみた従業員に学ばせたいデジタル技術（複数回答）
(上段:実数、下段:%)

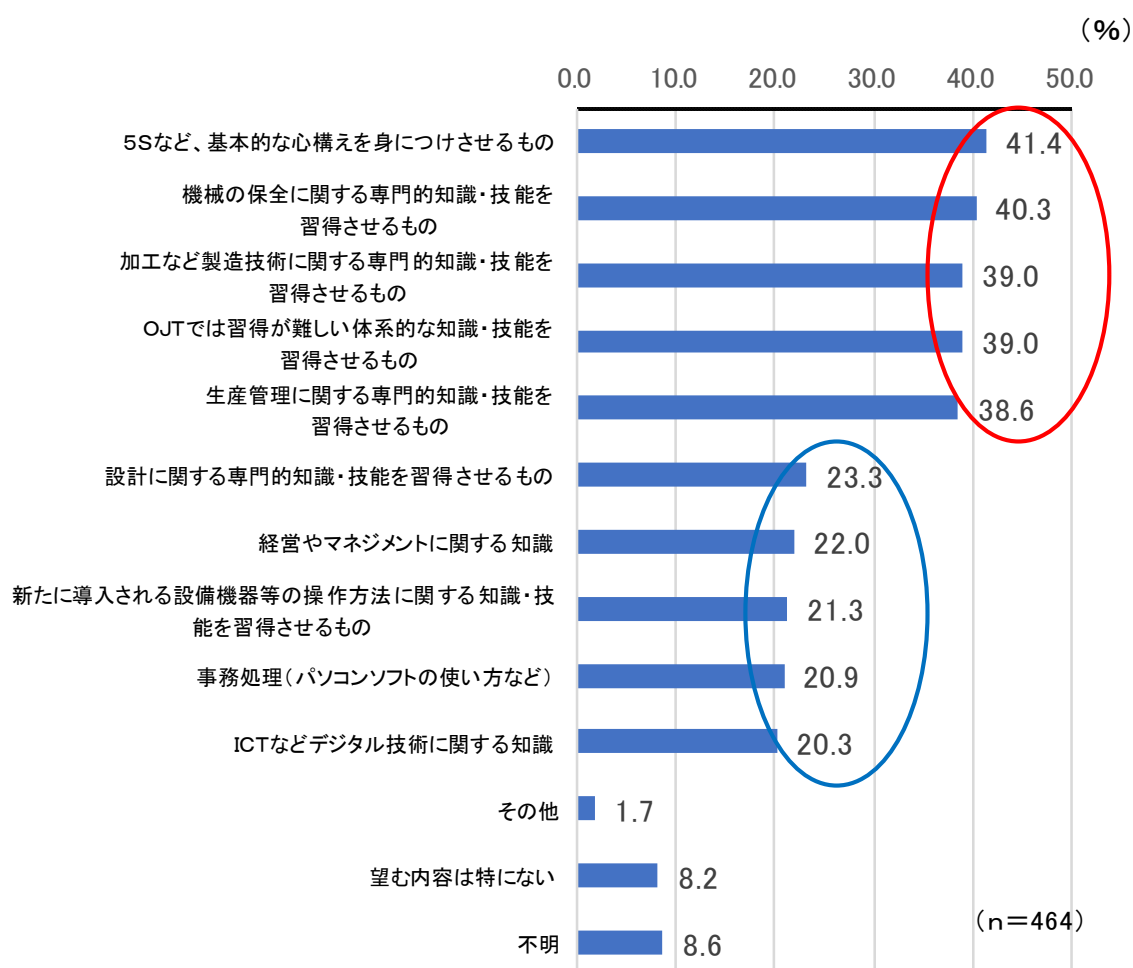
	合計	一般的なデジタル技術に関する知識・技術の習得	デジタル技術の自社への導入・活用・応用	他社で開発されたデジタル技術を応用した製品・サービスを使いこなす技術	管理者向けのデジタル人材の育成方法	デジタル技術で収集したデータの分析
全体	636	467	402	216	129	126
	100.0	73.4	63.2	34.0	20.3	19.8
製造業	311	234	219	104	70	64
	100.0	75.2	70.4	33.4	22.5	20.6
建設業	155	113	93	54	24	20
	100.0	72.9	60.0	34.8	15.5	12.9
その他	170	120	90	58	35	42
	100.0	70.6	52.9	34.1	20.6	24.7
	合計	プログラミング・システム開発	事業所と関連した国内外のデジタル技術の動向把握	その他	不明	
全体	636	111	45	6	16	
	100.0	17.5	7.1	0.9	2.5	
製造業	311	67	26	0	6	
	100.0	21.5	8.4	0.0	1.9	
建設業	155	10	10	5	7	
	100.0	6.5	6.5	3.2	4.5	
その他	170	34	9	1	3	
	100.0	20.0	5.3	0.6	1.8	

ウ デジタル技術の進展に対応したものづくり人材の育成について

(ア) 民間や公的な教育訓練機関が実施するOFF-JTに要望する内容

- ・ 製造業 464 事業所が、民間や公的な教育訓練機関が実施するものづくり人材を対象としたOFF-JTにどのような内容の研修を望むかについては、約 4 割、約 2 割の 2 つの回答群に分かれた。
- ・ 約 4 割は、「5 S^{*}など、基本的な心構えを身につけさせるもの」「機械の保全に関する専門的知識・技能を習得させるもの」「加工など製造技術に関する専門的知識・技能を習得させるもの」「OJTでは習得が難しい体系的な知識・技能を習得させるもの」「生産管理に関する専門的知識・技能を習得させるもの」の 5 項目であり、ものづくり関連の幅広い項目が並ぶ。
- ・ 約 2 割は、「設計に関する専門的知識・技能を習得させるもの」「経営やマネジメントに関する知識」「新たに導入される設備機器等の操作方法に関する知識・技能を習得させるもの」「事務処理（パソコンソフトの使い方など）」「ICTなどデジタル技術に関する知識」の 5 項目となった。

図表 民間や公的な教育訓練機関が実施するOFF-JTに要望する内容
(複数回答)



※5 Sとは、整理・整頓・清掃・清潔・しつけのこと。

- ・製造業のタイプ別*に、民間や公的な教育訓練機関が実施するOFF-JT研修に要望する内容をみると、タイプごとに差がみられる。
- ・〈生活関連型〉では、「5Sなど、基本的な心構えを身につけさせるもの」が43.6%で最も多く、「OJTでは習得が難しい体系的な知識・技能を習得させるもの」が37.9%、「生産管理に関する専門的知識・技能を習得させるもの」が37.1%となっている。
- ・〈基礎素材型〉では、「機械の保全に関する専門的知識・技能を習得させるもの」が46.1%で最も多く、「5Sなど、基本的な心構えを身につけさせるもの」が43.3%、「加工など製造技術に関する専門的知識・技能を習得させるもの」が38.3%となっている。
- ・〈加工組立型〉では、「加工など製造技術に関する専門的知識・技能を習得させるもの」が50.7%で最も多く、「OJTでは習得が難しい体系的な知識・技能を習得させるもの」が46.5%、「生産管理に関する専門的知識・技能を習得させるもの」が45.8%となっている。

図表 製造業のタイプ別にみた民間や公的な教育訓練機関が実施するOFF-JT研修に要望する内容（複数回答）

（上段：実数、下段：％）

	合計	5Sなど、基本的な心構えを身につけさせるもの	機械の保全に関する専門的知識・技能を習得させるもの	加工など製造技術に関する専門的知識・技能を習得させるもの	OJTでは習得が難しい体系的な知識・技能を習得させるもの	生産管理に関する専門的知識・技能を習得させるもの	設計に関する専門的知識・技能を習得させるもの	経営やマネジメントに関する知識
全体	464 100.0	192 41.4	187 40.3	181 39.0	181 39.0	179 38.6	108 23.3	102 22.0
生活関連型	140 100.0	61 43.6	41 29.3	39 27.9	53 37.9	52 37.1	25 17.9	33 23.6
基礎素材型	180 100.0	78 43.3	83 46.1	69 38.3	61 33.9	61 33.9	29 16.1	35 19.4
加工組立型	144 100.0	53 36.8	63 43.8	73 50.7	67 46.5	66 45.8	54 37.5	34 23.6
	合計	新たに導入される設備機器等の操作方法に関する知識・技能を習得させるもの	事務処理（パソコンソフトの使い方など）	ICTなどデジタル技術に関する知識	その他	望む内容は特にない	不明	
全体	464 100.0	99 21.3	97 20.9	94 20.3	8 1.7	38 8.2	40 8.6	
生活関連型	140 100.0	21 15.0	26 18.6	32 22.9	2 1.4	11 7.9	16 11.4	
基礎素材型	180 100.0	43 23.9	42 23.3	20 11.1	2 1.1	20 11.1	13 7.2	
加工組立型	144 100.0	35 24.3	29 20.1	42 29.2	4 2.8	7 4.9	11 7.6	

※製造業を次の3タイプに分類した。

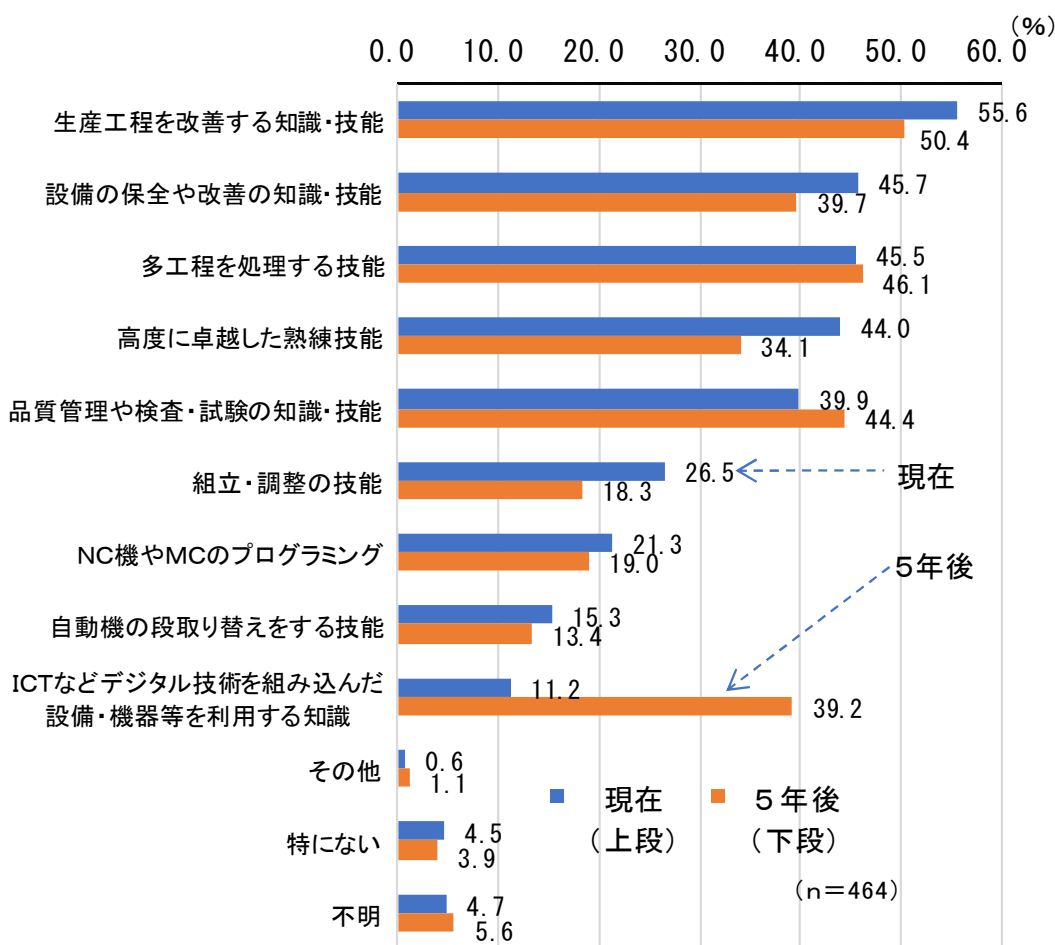
〈生活関連型〉…食料品、繊維品、印刷、その他

〈基礎素材型〉…木材・木製品、パルプ・紙、化学製品、ゴム製品、窯業・土木製品、鉄鋼、非鉄金属、金属製品

〈加工組立型〉…一般機器、電気機器、輸送用機器、精密機器

(イ) ものづくり人材にとって鍵となる技術・技能（現在、5年後）

- ・主力製品の製造にあたり、ものづくり人材にとって鍵となる技術・技能について、現在と5年後を比較する。
- ・現在、鍵となる技術・技能は、「生産工程を改善する知識・技能」が55.6%と最も多くなった。続いて、「設備の保全や改善の知識・技能」が45.7%、「多工程を処理する技能」が45.5%、「高度に卓越した熟練技能」が44.0%、「品質管理や検査・試験の知識・技能」が39.9%となっている。
- ・5年後に鍵となる技術・技能では、「生産工程を改善する知識・技能」が50.4%と最も多くなった。続いて、「多工程を処理する技能」が46.1%、「品質管理や検査・試験の知識・技能」が44.4%、「設備の保全や改善の知識・技能」が39.7%、「ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識」が39.2%となった。
- ・現在と5年後の比較では、「高度に卓越した熟練技能」が、現在の44.0%から、5年後は34.1%に減少している。
- ・一方、「ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識」が、現在の11.2%から、5年後は39.2%まで増加しており、今後、重要となる技術・技能の一つとして見ている。図表 ものづくり人材にとって鍵となる技術・技能（現在、5年後）（複数回答）



- ・製造業のタイプ別に、ものづくり人材にとって鍵となる現在の技術・技能をみると、いずれのタイプも上位項目は共通している。
- ・〈生活関連型〉では、「生産工程を改善する知識・技能」が57.1%で最も多く、「多工程を処理する技能」が43.6%、「設備の保全や改善の知識・技能」「高度に卓越した熟練技能」がともに42.1%で続く。
- ・〈基礎素材型〉では、「生産工程を改善する知識・技能」が50.6%で最も多く、「設備の保全や改善の知識・技能」が46.7%、「高度に卓越した熟練技能」が45.0%で続く。
- ・〈加工組立型〉では、「生産工程を改善する知識・技能」が60.4%で最も多く、「多工程を処理する技能」が49.3%、「設備の保全や改善の知識・技能」が47.9%で続く。
- ・一方、回答割合が低かった「組立・調整の技能」「NC機やMCのプログラミング」「自動機の段取り替えをする技能」「ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識」では、タイプにより差が見られる。
- ・「組立・調整の技能」「NC機やMCのプログラミング」では、〈加工組立型〉がそれぞれ43.1%、31.3%となっているが、〈生活関連型〉では、それぞれ20.7%、10.7%、〈基礎素材型〉では17.8%、21.7%となっている。
- ・また、「自動機の段取り替えをする技能」「ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識」でも、〈加工組立型〉がそれぞれ25.7%、20.8%となっているが、〈生活関連型〉では、それぞれ5.7%、9.3%、〈基礎素材型〉では、それぞれ14.4%、5.0%となっている。

図表 製造業のタイプ別にみた、ものづくり人材にとって鍵となる技術・技能
(現在) (複数回答)

(上段：実数、下段：%)

	合計	生産工程を改善する知識・技能	設備の保全や改善の知識・技能	多工程を処理する技能	高度に卓越した熟練技能	品質管理や検査・試験の知識・技能	組立・調整の技能
全体	464 100.0	258 55.6	212 45.7	211 45.5	204 44.0	185 39.9	123 26.5
生活関連型	140 100.0	80 57.1	59 42.1	61 43.6	59 42.1	50 35.7	29 20.7
基礎素材型	180 100.0	91 50.6	84 46.7	79 43.9	81 45.0	70 38.9	32 17.8
加工組立型	144 100.0	87 60.4	69 47.9	71 49.3	64 44.4	65 45.1	62 43.1
	合計	NC機やMCのプログラミング	自動機の段取り替えをする技能	ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識	その他	特にない	不明
全体	464 100.0	99 21.3	71 15.3	52 11.2	3 0.6	21 4.5	22 4.7
生活関連型	140 100.0	15 10.7	8 5.7	13 9.3	2 1.4	6 4.3	8 5.7
基礎素材型	180 100.0	39 21.7	26 14.4	9 5.0	0 0.0	11 6.1	9 5.0
加工組立型	144 100.0	45 31.3	37 25.7	30 20.8	1 0.7	4 2.8	5 3.5

- ・ 製造業のタイプ別に、ものづくり人材にとって鍵となる5年後の技術・技能をみる。
- ・ 〈生活関連型〉では、「生産工程を改善する知識・技能」が50.0%で最も多く、「多工程を処理する技能」が40.7%、「設備の保全や改善の知識・技能」「高度に卓越した熟練技能」「品質管理や検査・試験の知識・技能」のいずれもが37.1%で続く。
- ・ 〈基礎素材型〉では、「多工程を処理する技能」が50.6%で最も多く、「生産工程を改善する知識・技能」が48.3%、「設備の保全や改善の知識・技能」「品質管理や検査・試験の知識・技能」がともに44.4%で続く。
- ・ 〈加工組立型〉では、「ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識」が54.2%で最も多く、「生産工程を改善する知識・技能」が53.5%、「品質管理や検査・試験の知識・技能」が51.4%で続く。総じて、〈生活関連型〉と〈基礎素材型〉より高くなっている。
- ・ 「ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識」は、〈加工組立型〉で54.2%と過半数を超える。〈生活関連型〉は34.3%、〈基礎素材型〉でも31.1%と、現在と比べ重要度が増すとみている。

図表 製造業のタイプ別にみた、ものづくり人材にとって鍵となる技術・技能（5年後）（複数回答）

（上段：実数、下段：％）

	合計	生産工程を改善する知識・技能	設備の保全や改善の知識・技能	多工程を処理する技能	高度に卓越した熟練技能	品質管理や検査・試験の知識・技能	組立・調整の技能
全体	464 100.0	234 50.4	184 39.7	214 46.1	158 34.1	206 44.4	85 18.3
生活関連型	140 100.0	70 50.0	52 37.1	57 40.7	52 37.1	52 37.1	19 13.6
基礎素材型	180 100.0	87 48.3	80 44.4	91 50.6	56 31.1	80 44.4	28 15.6
加工組立型	144 100.0	77 53.5	52 36.1	66 45.8	50 34.7	74 51.4	38 26.4
	合計	NC機やMCのプログラミング	自動機の段取り替えをする技能	ICTなどデジタル技術を組み込んだ設備・機器等を利用する知識	その他	特にない	不明
全体	464 100.0	88 19.0	62 13.4	182 39.2	5 1.1	18 3.9	26 5.6
生活関連型	140 100.0	12 8.6	11 7.9	48 34.3	2 1.4	6 4.3	9 6.4
基礎素材型	180 100.0	37 20.6	22 12.2	56 31.1	2 1.1	7 3.9	13 7.2
加工組立型	144 100.0	39 27.1	29 20.1	78 54.2	1 0.7	5 3.5	4 2.8

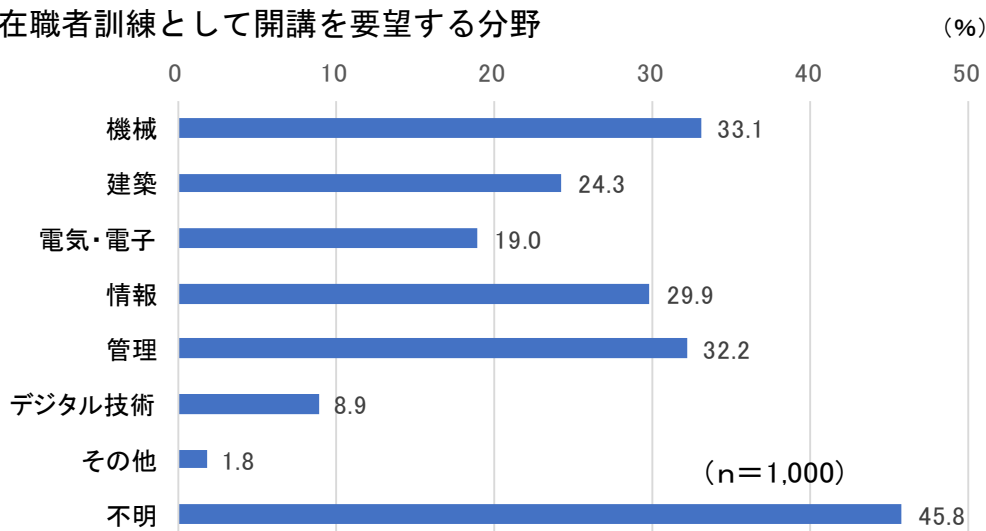
エ 県立工科短期大学校・浜松技術専門学校が実施する在職者訓練について

(ア) 在職者訓練として開講を要望するコース分野^{※1}

(上位1位から3位まで選択したコースの合計)

- ・在職者訓練として開講を要望するコースを分野別にみると、最も多かった分野は「機械」で33.1%^{※2}だったものの、「管理」も32.2%、「情報」が29.9%と、3分野が30%前後で並んでいる。

図表 在職者訓練として開講を要望する分野



※1 開講を要望する分野、詳細分野、要望するコース

分野	詳細分野	要望するコース
機械	機械設計製図	機械製図基本、2次元CAD(機械)、3次元CAD(機械)、CAE、機械設計
	機械加工	旋盤、フライス盤、NC旋盤、マシニングセンタ、複合加工機
	測定	測定基本、3次元測定、幾何公差
	金属加工/成型加工	プレス加工、射出成形、溶接加工
建築	材料特性	建築材料
	建築設計製図	建築製図基本、2次元CAD(建築)、3次元CAD(建築)、建築設計
	建築施工	施工計画、内外装仕上げ、住宅補修改修
	建築設備	空気調和設備、給排水衛生設備、ビル設備管理
電気・電子	制御システム設計	シーケンス制御、メカトロニクス設計、画像処理
	組込みシステム開発	マイコン制御
	設備設計・保全	電気設備設計、電気設備保全、生産システム設計
	電子回路	アナログ回路、デジタル回路、パワーエレクトロニクス
	測定・検査	電気・電子測定、電気・電子部品検査
情報	オフィス	Word、Excel、PowerPoint、Access
	プログラミング	VB、C、Java、Android
	ホームページ・Web	Wordpress、HTMLとCSS3、JavaScript
	ネットワーク管理	ネットワーク構築、ネットワークセキュリティ
管理	工場管理	コスト改善・低減、生産工程改善、品質管理
	教育・安全	教育訓練、指導技法、安全管理
デジタル技術		AI、IoT、産業ロボット、具体的に
その他		その他1、2、3

※2 構成比は、分子を要望するコースの上位1位から3位まで選択したコースの合計、分母を1,000事業所として算出。

(イ) 在職者訓練として開講を要望するコース（上位 30 位）

- ・在職者訓練として、開講を希望するコース（上位 1 位から 3 位までの合計）をみると、「コスト改善・低減」が 72 件（7.2%）で最も多く、「ネットワーク構築」と「品質管理」がともに 69 件（6.9%）で続いている。

図表 在職者訓練として開講を要望するコース（上位 1 位から 3 位までの合計）

	コース	回答数	構成比※（%）
1	コスト改善・低減	72	7.2
2	ネットワーク構築	69	6.9
2	品質管理	69	6.9
4	生産工程改善	65	6.5
5	3次元 CAD（機械）	64	6.4
6	シーケンス制御	60	6.0
7	ネットワークセキュリティ	48	4.8
7	安全管理	48	4.8
9	Excel	44	4.4
10	3次元 CAD(建築)	41	4.1
10	施工計画	41	4.1
10	教育訓練	41	4.1
13	マシニングセンタ	40	4.0
14	電気設備設計	38	3.8
15	空気調和設備	33	3.3
15	AI	33	3.3
17	IoT	32	3.2
18	溶接加工	29	2.9
19	機械設計	28	2.8
19	給排水衛生設備	28	2.8
19	Wordpress	28	2.8
22	NC 旋盤	27	2.7
22	電気設備保全	27	2.7
22	指導技法	27	2.7
25	機械製図基本	26	2.6
25	2次元 CAD(建築)	26	2.6
27	2次元 CAD(機械)	25	2.5
28	PowerPoint	24	2.4
29	建築設計	22	2.2
29	Word	22	2.2

※構成比は 1,000 事業先と算出。